



思い出と誇りを胸に 東庄中学校卒業式

第35回東庄中学校卒業式は、3月11日(火)に挙行され155名が未来への新たな一歩を踏み出しました。及川校長は「目標を意識した多彩な進路選択や地域の行事に積極的に取り組む姿を頼もしく思いました。これから幾多の試練があるかもしれませんが、苦しい時が大事。ねばり強く頑張ってください」と卒業生にエールを送りました。式典の後、卒業生は吹奏楽部の演奏の中、記念写真を撮ったり握手を交わしたりと、いつまでも別れを惜しんでいました。



ダーツが的中！ テレビ番組で東庄町が紹介

3月5日(水)、日本テレビの番組「1億人の大質問!? 笑ってコラえて！」の中で東庄町が紹介されました。番組中の「ダーツの旅」コーナーで、東庄町に白羽の矢ならぬ赤いダーツが的中。イチゴやSPF豚、ふれあい朝市などが取り上げられたほか、自然体の町の人たちが東庄町ののどかな風景とともに放送されました。出演したのは以下の皆さんです。

第1町人



向後 喜一 さん (新田 75歳)

「ドジョウは食べるより捕まえて人にあげるのが好き。テレビ局の人は、根方の西福院のあたりで2時間くらい私と話をしていったよ」

第2町人



鈴木 みつ さん (鹿野戸 79歳)

「近所を散歩していたら声かけられて。犬(クロちゃん)を撮っていると思ったのに、自分も映ってたの?! テレビは見てないんだよ」

第3町人



五十田 孝 さん (東今泉 85歳)

「雨の日以外は毎朝1時間ちょっと歩くの。途中10分位休憩してね。歩く時の靴はワンタッチでないため。いい靴もあつたんだけどね」

第4町人



平野 武夫 さん (羽計台 71歳)

「ハクチョウや野鳥たちは目がかわいいんだよ。放送されてから、パンダガモと呼んでいるミコアイサを夏目の堰に見に来てくれた人もいたね」

※いちごは高橋農園さん(小座)で撮影。SPF豚を紹介した飯田さんは6ページに掲載しています。ふれあい朝市のご夫婦は銚子の方でした。

大きくなって戻ってきて！ 笹川小サケの稚魚放流

2月25日(月)笹川小学校2年生57人が利根川河口堰ではじめてサケの稚魚を放流しました。この稚魚は昨年末から国語科・生活科の校外学習の一環として学校で飼育していたもので、卵のふ化から体長が5～6cmになるまで児童が大事に育ててきました。児童は手塩にかけた稚魚を一人ひとりの手で放流した後、「がんばれー！」と大きな声をかけたり、「早く大きくなって戻ってきて欲しいね」と口々に話したりしていました。

また、水資源開発機構の協力により、河口堰の役割や川の大切さなどを知る校外学習もあわせて行われ、児童はサケを通して川と生活の関わりについて理解を深めていました。



2ヵ月先の豊作を願って 交流農業体験

東庄産コカブのPRや交流などを目的に3月8日(土)、消費者と生産者との交流農業体験が東庄ふれあいセンターで行われました。参加したのは町内外から集まった20組40人。生産者が準備したセンター内の畑に、コカブなどさまざまな野菜の種をまき、その後のみそづくり研究会によるコカブ料理の試食が行われました。センターでの体験の後は希望により、鈴木いちご園でのいちご狩りや、新宿営農組合での無料収穫体験やあかね米の試食が行われました。たくさんのお土産に参加者からは「こんなにもらって良いのかしら」と喜びの音が聞かれました。

今回まかれたコカブの種は2ヵ月かけて育ち、5月4日(日)には収穫体験が予定されています。

ジャズ&タップで感性を磨く 神代小 芸術鑑賞会

いろいろな芸術に触れて感性を磨いてほしいと、神代小学校で毎年開催されている芸術鑑賞会。今年は昨年に続きジャズ演奏にタップダンスを交えて3月1日(土)に行われました。銚子市や神栖市を中心に活動している飯田佳子さん(大友・ピアノ担当)にドラム、ベースを加えた3人の演奏と東京で活躍する岩瀬さんの軽快なタップダンスに合わせて、児童は手足でリズムを取りながらジャズを楽しんでいました。最後に児童を代表して山本美来さん(平山)と大根佑理さん(大久保)が「皆さんの演奏やダンスはとても素敵で心に残りました。これからもいろいろな音楽に触れて感性を磨いていきたいと思います」と感想を発表しました。

